

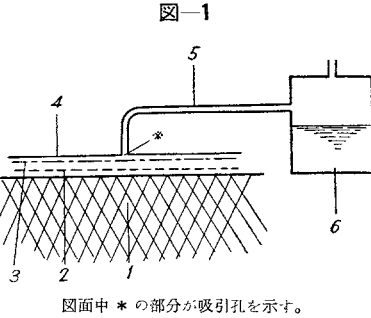
特許庁審査第二部提供

泥濘軟弱なる地盤の固結法

特公 昭 32-5124

発明者 青木正一・高林利秋

地盤 1 上にまず布 2 を、次に網 3 を置き、さらにこの上に吸引孔を有し、かつ気密性ある覆い 4 (ゴム板等) を置いて、真空ポンプによつて吸引孔を通じて、地盤の水を吸引除去すると同時に、大気圧を利用してこれを締めようとするものである。ノリ面等の締めめに適当であろう。



図面中 * の部分が吸引孔を示す。

プレキャスト コンクリート柱の樹立方法

特公 昭 32-5125

発明者 万年真也

割栗石 7 上の捨コンクリート 8 の水平面にベース筋 9 を配筋し、その中央上部に円錐形仮ワク 10 を固定し、コンクリートを打つことにより円錐形受台 11 を作り、その上に異形鉄筋 2 (並列した鑽状またはラセン状等の突状を形成したもの等) を脚部に埋設したプレキャスト柱 1 を載せて立て、その異型鉄筋を地中ハリ鉄筋 14 と連結するとともに、地中ハリおよび基礎 16 の仮ワク 15 を作成して、コンクリートを注入することにより、基礎および地中ハリ接続部 17 を同時に塑造する。

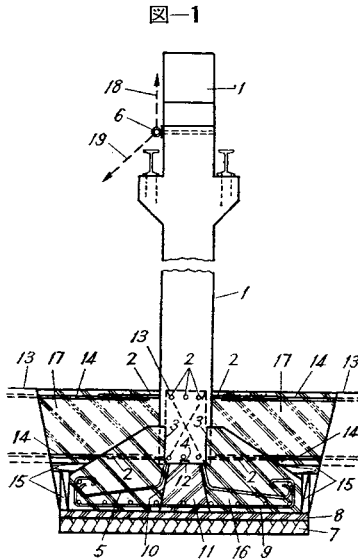


図-1

バキューム ポイント工法

特公 昭 32-5126

発明者 藤田一・松田敬一

サンド ドレイン 工法の一改良とも考えられ、地中に形成した砂柱 10 中に、多数の穿孔を施し、表面に金網を被覆したポイント 9 を埋設し、これの支持管 5 をゴムホース 7 を介してバキュームポンプに連結された主管 8 に連結し、一方砂柱の上部に粘土 11 を重積し、バキュームポンプを運転することによつ

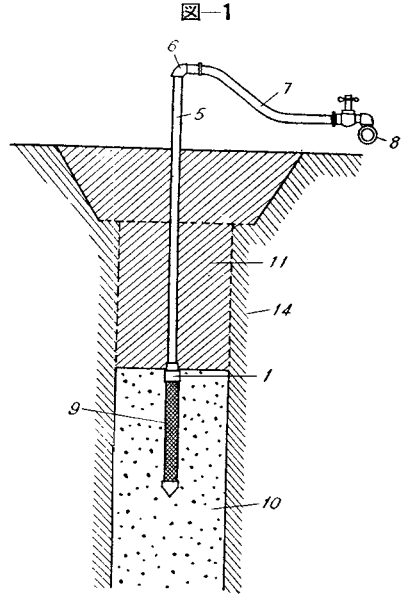


図-1

て、砂柱内に浸出してくる周囲の土層内の水を地上に排出せしめ、地盤を沈下させて、これを締めめるようにした。

潜函工法

特公 昭 32-5128

発明者 中出定夫

潜函体 A の底壁 1 をその沈下にさきかけて地中に深く刺挿される基杭 6 によつて、適当間隙ごとに支持し、これらの基杭の下端 9 から、潜函体の沈下時には、水または空気を噴出させて沈下を容易にし、沈下が終つて堅層に達したら、凝結剤を噴出させて、支持を確実にするようにしている。

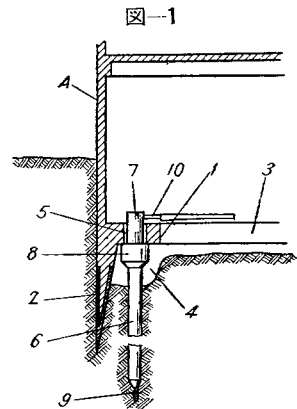


図-1

盾形擁壁の構造

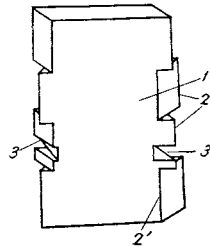
特公 32-5129

発明者 貞方忠一

互いに合同であつて、かつ反対方向に偏倚した平行四

辺形の横断面が上下にわたつて、交互に形成された形状をもつた、鉄筋コンクリート製単位板を組積して構築するもので、単位板相互はクサビ形の斜面同士契合によつて前後にそれることなく、またその上下の端面同士契合によつて上下に逸脱することなく、全体として整頓結合される。

図-1



図面は単位板 1 の斜視図である。

繫留基

特公 昭 32-5132

発明者 佐香輝幸

電柱等の支線下端を定着し、打込棒を嵌脱しうるようにした、比較的小型の推進部材 ㊸ の後端に、電光型断面の比較的大な抵抗板 ㊹ をその中央段肩部において、支線を貫通させるようにして可動的に連結し、この抵抗板にかかる土圧抵抗によつて、支線張力を支持させるようにしている。

図-1

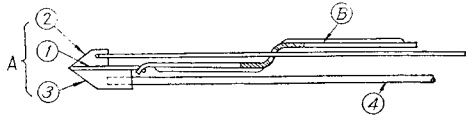
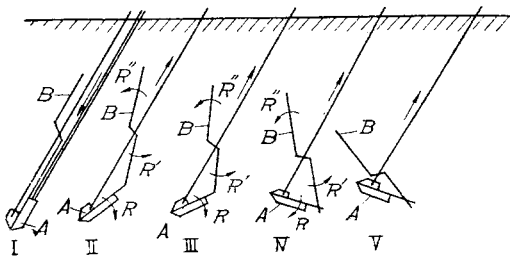


図-2



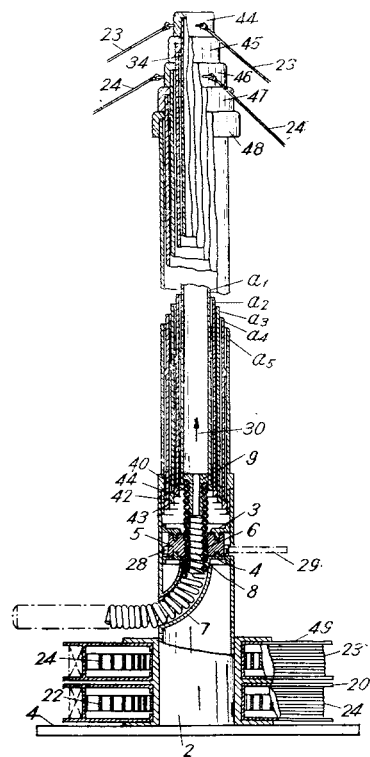
伸縮柱

特公 昭 32-5388

発明者 福家芳夫・竹内勝

基管 2 内の支持ワク 3,4 間に、回転自在に設けた歯環 5 に、外部から誘導管 7 を通して、給送される可撓螺管 8 が螺合挿通され、その先端 9 は内管 a_1 の下端に固着され、基管に固定した外管 a_2 と、内管との間に介装された、多数の中管 a_3, a_4, \dots は、前記可撓螺管の伸出によつて、内管の後から順次上昇せしめられる。一方各管頭に連結した索条 23, 24... を巻装した巻ワク 19, 20... には、渦巻バネが設けられている、特に柱を短縮する場合に好適なように用意されている。

図-1



コンクリート
三笠
パイクルタ

建築工事用
砂防橋梁用
ダム堰堤用
道路舗装用
(モーター式・エヤー式
エンジン式各種)

本社 東京都中央区八重洲 4 の 5
営業所 TEL (28) 8673-4・9978
工場 群馬県館林市成島 2042 電話 館林 221

三笠産業株式會社

